
僕たち私たちの楽しくない魔法学

主人公を引き立たせるのは脇役！

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕たち私たちの楽しくない魔法学

【Nコード】

N9113W

【作者名】

主人公を引き立たせるのは脇役！

【あらすじ】

魔法がある世界を舞台とした物語。

ブローグ（前書き）

暇潰しに書きます。

プロローグ

――俺は、魔法というものが嫌いだ。

――なぜ俺は、こんな世界に生まれた。

――魔法がある世界なんて全部消えろ。

――世界にこのまま、魔法が存在し続けるなら

――俺がこの世界の全てを変えてやるよ

――魔法が存在しない世界に変えてやるよ。

――そつだ。俺が理想とする世界にな。

ある重犯罪者が犯罪を犯した動機。

この犯罪者は、10年前に公開処刑された。

この犯罪者は、世界に大きな影響を与えた。

この犯罪者は、国から信用された魔法使いだった。
。

この犯罪者が犯した罪は、他国の国を滅ぼした。

その滅ぼされた国から生存者は、3人だけだった。

この犯罪者は、死ぬ寸前まで笑っていた。

プロローグ（後書き）

感想待ってます。

第1話「始まり」(前書き)

やっぱり短いです。

第1話「始まり」

あの事件から約10年の時が流れ、一人の少年の物語。

シン視点

なんちゃって。俺は、別にあの犯罪者については、復讐心なんか持
ってないし。する気もないし。そもそももう死んじやってるから無
理だけどね。

え、そう言っても、自身の故郷を滅ぼされたからあの犯罪者は、憎
んで当たり前だろうじゃないかだって？。

は？何言ってるの。

そもそも俺は、いつ言った。俺が「10年前にある犯罪者が滅ぼし
た国の生き残り」なんて俺は、一言も言ってる無いだろう。

まあ、確かに滅ぼされた国の生き残りがその滅ぼした人間に復讐を
誓い生きていくストーリーもあるよ。けど最近、それってかなり頻
度で見かけるよね。

まあ、全部が全部そんなストーリーだったら飽きるだろ。
もう一回言っけど、その犯罪者は、もうとつくに天に召されてるから。

まあ、だから俺は、復讐なんてことしません。

ん、なんでそんなに結構危ない話ができるのか？

そんなもん決まっている。俺がよくある転生者だからさ。

みんな驚かないんだね。まあ、最近、よくあるからね。

ん、じゃあお前も誰かに力をもらってチートか？

違うね。俺はチートなんかじゃないし。

それにここは、漫画やアニメの世界じゃなくて、もしもの世界さ。
へ、どうゆうもしもの世界だ？

まあ、世界が科学じゃなく魔法が発達した世界さ。

まあ、この世界の説明や俺の紹介は、次回をお楽しみに。

第1話「始まり」（後書き）

迷言集その1

「そもそも、先の未来の分かる世界ほどつまらない世界はない。
作った人は、主人公を引き立たせるのは、脇役！」

第2話「説明」(前書き)

長く書けない

第2話「説明」

ープロフィールNo.1ー

名前…シン・ヴァンファレン（一応主人公）

歳…15（転生前18）

趣味…散歩 空を眺める

特技…逃走 気配遮断

一応主人公。逃げることになれば右に出る物無しと言われた。たんなる臆病者である。本気を出せば、50?を一瞬で走り抜けることが出来るが、やはり臆病者なので逃げることにしか使わない。魔法の種類は、身体強化の魔法を劣化させ、自身の下半身しか強化させないようにしている。最近、逃げることに限界を感じ始めている。そのため、防御魔法を覚えようとしている。

シン視点

さて、まずは、俺が転生したことについて話そう。まあ、詳しくは転生じゃなくて憑依なんだけどね。

まず、俺はアニメや漫画が好きな高校生だったはず。歩いていたら、足元になぜか豆腐があつたんだ。まあ、踏んだんだ。こけたりは、しなかった。でもその後の行動がいけなかった。あの後すぐに背後から車が来たんだ。車だぞ、トラックじゃないぞ。車を避けようと

したら、豆腐にせいで足が滑って車とは正面衝突して気が付いたら赤ん坊になってたんだ。

そうして、俺は■ ■ ■からシン・ヴァンファレンになった。家族についてはまた今度な。

次は、この世界についての説明だな。

この世界は、『ガルデシア』って名前だ。

まあ、前に一回言ったと思うがここは、科学より魔法が発達した世界だ。

魔法って言っても、『攻撃魔法』『強化魔法』『防御魔法』が三大魔法と呼ばれている。

ちなみに、召喚魔法みたいな物があるが、三大魔法より習得が難しい為三大魔法には入ってない。

そもそも三大魔法は、まず、魔法使いになるために必ず三大魔法を覚えなくちゃいけないからな。

三大魔法を覚えるって言ってもその中の攻撃防御強化の一つを覚えればいいんだ。

まあ、魔法についての説明は、また別のどこかでするわ。

この世界『ガルデシア』は、三つの国にわかれている。

『ブレイド』『ニューリバーズ』『フリーダム』の三つだ。

まあ、簡単に言うとブレイドは、歴史ある由緒正しい国。

ニューリバーズは、10年前に滅ぼされた国を立て直した。

フリーダムは、国から追い出された人や自分の国のやり方に納得出来なかった人達の集まり。最初は、小さい村だったけど人がたくさん集まっていつの間にか国になった。

まあ、これが俺が今いる世界ガルデシアだ。

説明も終わった。

やっと次回からは、物語りが始まる。

臆病な主人公シンは、この世界ガルデシアをどう生きるのか。

次回『俺の始まり』

第三話「追いかけて」(前書き)

シン『なんか嫌な予感がある。』

第三話「追いかけてっ」

シン視点

ここであか、俺には家族がいる。まあ、当たり前だがな。

父さんも母さんもいて、弟と妹がいる。

普通の一般家庭だ。

ただ、この家族ちよつと普通じゃないんだ。

妹は、普通に可愛い部類に入る。

ただ、以上なブラコンだ。しかも、俺だけに以上になつていて。それだけならまだいいだ。

ただ、問題は、弟と父さんなんだ。

弟の方は、シスコンだ。

しかも、前聞いたところ自分の妹を恋愛対象として見てるようだ。

父さんは、妹にだけに以上な親バカだ。

父さん曰く、「俺の娘は、誰にも渡さん。例え国王だろうと。」だそ
うだ。

母さんは、別に変わった所は、ない。

弟と父さんマジでいらね。

シン『はあゝなんでこんな所に生まれたんだろつ。』
家のソファアに座りながら呟く。

トコトコトコトコトコ

なんだ足音が近づいてくる。

トコトコトコ

足音が止まった。

そして、自分の目の前には、一人の少女

ミイ「お兄ちゃん、元気無いけど大丈夫？」

妹のミイが上目遣いで俺に聞いてきた。

シン『大丈夫、お兄ちゃんは元気だからね。』

ミイの頭を撫でながらそう言った。

ミイ「うん、それなら良かった。」

そして、ミイは、「ほほを染めながら笑顔」で俺にそう言った。

俺は、その瞬間ソファーから転がりその場から離脱した。

そうしたら。俺が座っていたソファーが跡形もなく無くなっていた。

ユウ「兄貴、何俺の妹に手を出してんだ！！」

コウ「シイイイイイイイン！！。何俺様の女神に手を出してんだ。」

ソファーを消し飛ばしたのは、紛れもなく自分の家族だった。

こいつら、血の繋がった家族になんて攻撃をしやがる。

俺じゃあなかったら今頃生死をさまよってるぞ。

シン『お前ら、いきなり家族になんて攻撃しやがる。俺じゃあなかったら死んでるぞ。』

ユウ「五月蠅い。兄貴が俺のミイに手を出したのがいけないんだ！

！
」

シン『何時俺が妹に手を出したんだよ。』

コウ「頭を撫でてただろが！！」

なんだと。俺の家族は、妹の頭を撫でただけでソファァーが消し飛ばすような攻撃を受けるらしい。
なんて、嫉妬深いんだ。自分の家族ながら恐ろしい。

コウ「とりあえず、シンちょっとあの世まで逝ってきてこい。頼むマジで。」

コウ「兄貴、俺からも頼む。」

シン『ちょっと待て。なんで、ちょっとお使い行ってきたみたいな言い方なんだよ。てか、頼まれても逝かねえよ。そんなところ。』

コウ・ユウ「じゃあ、俺達が逝かしてやるからだからちょっとあの世まで安心して逝ってこい。」

シン『安心なんか微塵も出来ねえよ。なんでこういう所では、息びったりなんだよ。畜生。』

ガッシャヤヤン

コウ・コウ「待ちやがれこの獲物野郎！！」

シン『誰が待つか！？てか、今獲物で言っただろうお前ら。』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9113w/>

僕たち私たちの楽しくない魔法学

2011年10月24日00時57分発行